

海外安全対策情報 2021年第1四半期（1～3月）

在ブルガリア日本国大使館

1 社会・治安情勢及び一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）社会情勢

昨年7月以降、ソフィア市を中心に全国的にボリスフ首相及びゲシェフ検事総長の辞任を求める大規模な反政府デモが継続していましたが、今年に入ってから、デモは、散発的、かつ、比較的小規模で、平穏に行われており、治安への大きな影響は見られませんでした。

（2）治安情勢

ブルガリアの犯罪発生件数は近年減少傾向にあり、2019年の犯罪総数は2010年の約6割にまで減少しました。しかし、その一方で、日本と比較すると依然として犯罪発生率は高く、人口10万人当たりの発生件数では、犯罪総数は日本の約2倍、殺人は約4倍、強盗は約1.4倍となっています。

2020年に入っても犯罪の減少傾向は続いており、上半期（1～6月）の犯罪認知件数は前年同期比マイナス7.8%でした。

（3）邦人被害犯罪の発生状況

1月中旬、邦人がブルガリア国内のスーパーで買い物中、レジに並んでいたところ、突然、ブルガリア人と思われる見知らぬ男が、「中国人は出て行け！」と叫びながら、ショッピングカートで横から突っ込んでくるという暴行事案が発生しました。同邦人は足を打撲したものの、幸い、大きな怪我はありませんでしたが、暴行を加えた男はなおも「出て行け！」と叫び続け、警備員がかけつける騒ぎとなりました。

2 テロ・爆弾事件発生状況

発生していません。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が被害に遭った事件は認知していません。

4 日本企業の安全に関する諸問題

ブルガリア国内における対日感情は基本的には良好で、日本人に対する差別行為はこれまで殆ど見られませんでした。しかし、新型コロナウイルスは中国から持ち込まれたという思いや、長引くコロナ禍を背景としたストレスや不満の蓄積により、今後、中国人と日本人との混同も含め、アジア人全体に対する差別が顕在化してくるおそれがありますので、十分ご注意ください。